

Title	高齢者ケアサービスにおける音声つづやきシステムによる実践知形成
Author(s)	平林, 裕治
Citation	
Issue Date	2014-09
Type	Thesis or Dissertation
Text version	ETD
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/12293">http://hdl.handle.net/10119/12293</a>
Rights	
Description	Supervisor:井川 康夫, 知識科学研究科, 博士

## 概要

日本だけでなく国際的に高齢化が進展し介護が必要な高齢者が増加していく状況において、高齢者の QOL を向上させるために介護の質と効率を向上することが社会的な課題の 1 つになっている。この課題を解決するために、福祉・介護分野で情報通信技術の活用が限定的であるという問題意識から本研究は始まっている。

高齢者の心身の状況は常に変化しているので、高齢者ケアサービスでは状況に依存した即興的な判断をするために実践知が求められる。そこで、報告・連絡やモニタリング情報を共有化する音声つぶやきシステムを用いて、ケアサービスにおける実践知形成の実態を明らかにすることを本研究の目的とした。ケアサービスにおける実践知形成に関する研究には、音声つぶやきシステムなどの情報通信技術を用いた研究はこれまでになく新規性がある。

提案した理論的モデルは 2 つの OJT で構成されている。ケアスタッフの音声つぶやきと音声つぶやきによる気づきから好事例を選定し、組織知として共有するオフサイト OJT と、ケアサービス中に音声つぶやきを遠隔でリアルタイムに感知して気づきを醸成する遠隔音声 OJT である。本研究では、オフサイト OJT と遠隔音声 OJT とが相互補完的に実践知を形成する独自の理論的モデルを提案している。

実務的含意には、通常は記録しないことでも音声つぶやきシステムであれば容易に記録でき、音声つぶやきから抽出する好事例の範囲が広がったことがある。また、好事例を率先垂範することにより実践知が組織内で循環することの有効性を実証した。

今後の課題には、音声つぶやきと位置情報や満足度を融合した評価指標により、好事例の選定方法を確立すること、現場情報や好事例から知識体系を整備する方法論を確立することがある。音声つぶやきシステムを用いて実践知を形成する方法には汎用性があり、他の用途への適応も可能である。

キーワード： ケアサービス、音声つぶやき、実践知、好事例、気づき